

「刊記を疑う」 ―校合調査に基づく刊年・印行年の推定―

和漢古典籍研究分科会

松下 賢	(駒澤大学図書館)
高島 みなみ	(成城大学図書館)
八木 彩香	(中央大学図書館)
堀 はな恵	(鶴見大学図書館)
小此木 敏明	(立正大学品川図書館)
藤 順一	(早稲田大学図書館)

研究発表要旨

和漢古典籍資料では「刊・印・修」の区別が重要になるが、資料を1点見ただけでそれらを判断することは難しい。本調査では、会員校に複数所蔵のある資料を用い、校合によって刊行年・印行年の推定を試みた。刊記の有無にかかわらず、刊年推定時には書物の綿密な調査と他伝本との校合が重要であり、時には刊記の記載年次を疑うことも必要となる。

〈 研究分科会プロフィール 〉

日本や中国・朝鮮半島などで刊行された古典籍資料について、大学図書館職員として必要な書誌学の基礎知識・書誌作成方法を習得することを目指している。会員所属図書館蔵の和漢古典籍を使って、情報源に対する的確な理解、装訂に関する知識、紙質や字様・分類についての考証、刊印修の分別などとともに、書誌事項の適切な表記の仕方までを演習形式で学ぶ。

〈 研究活動内容 〉

定例の月例会では基礎知識を養うために、堀川貴司著『書誌学入門：古典籍を見る・知る・読む』（勉誠出版）をテキストに、章節ごとに担当を決めその要約・発表を行なった。また、会員校図書館が所蔵する古典籍資料を用い、実際に調書作成を実施し適宜講師より助言等いただいた。

夏の集中研究会では外部より講師をお招きし、分科会会員・所属校図書館員で海外（アメリカ）における古典籍資料への取り組み、所蔵資料の利活用についての講演を聴講した。その他活動として、駒澤大学禅文化歴史博物館において実施された、『正法眼蔵弁註』版木の摺り作業を見学した。

〈 次年度予定 〉

日本や中国・朝鮮半島などで刊行された古典籍資料について、大学図書館職員として必要な書誌学の基礎知識・書誌作成の方法を習得することを目指す。

〈 ホームページ 〉

<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/kotenseki/index.html>

『科註妙法蓮華經』対照リスト

巻第1上																	巻第1下			巻第2下			巻第3			巻第4			巻第5			巻第6			巻第7			巻第8			
請求記号	刊年	西暦	出版者	出版地	辺	界線	行	字	口	魚尾	版心題	大きさ	内匡郭	返点	訓点送仮名付	句読点	14丁表4行目「偏」の画数		24丁黒口内の模様など		6丁黒口と魚尾		17丁魚尾と黒口		34丁表匡郭の上		43丁黒口の割れなど		44丁表界線の割れ		17丁表界線の割れ		11丁の黒口と魚尾		46丁裏「賢」「ノ」		46丁裏「道」		46丁裏「陀」		
【立正】A12/159	寛永8年	1631	豊雪斎道伴〔中野市右衛門尉〕	〔京都〕	四周双边	有界	8行	17字(小字注文双行)	中黒口	双花口魚尾	妙科	28.2×20.4	19.5×16.1	○	○	○		一面少ない		模様なし		模様なし						割れなし						黒口と魚尾接しない							
【立正】A12/591	慶安4年	1651	中野氏道伴〔中野市右衛門尉〕	〔京都〕	四周双边	有界	8行	17字(小字注文双行)	中黒口	双花口魚尾	妙科	27.8×19.5	19.6×16.1	○	○	○		一面あり		模様なし		黒口と魚尾接しない		魚尾と黒口接しない		双边		左右に割れ		左右に割れ		左右に割れ		黒口と魚尾接しない							
【立正】SA12/17/2-10	天和3年	1683	中野氏道伴〔中野市右衛門尉〕	〔京都〕	四周双边	有界	8行	17字(小字注文双行)	中黒口	双花口魚尾	妙科	27.7×19.2	-	○	○	○	巻1上欠			模様なし								割れあり													
【駒澤】H353/51	慶安2年	1649	豊興堂〔中野小左衛門〕	〔京都〕	四周双边	有界	8行	17字(小字注文双行)	中黒口	双花口魚尾	妙科	28.1×19.8	19.2×16.1	○	○	○		一面少ない		模様なし		黒口と魚尾接しない		魚尾と黒口接しない		双边		割れなし		割れなし		割れなし		黒口と魚尾接しない							
【駒澤】H353/83	寛文8年	1668	-	-	四周双边	無界	8行	17字(小字注文双行)	中黒口	単黒魚尾	妙科	31.8×20.0	19.1×15.8	○	○	○		一面あり		模様なし		魚尾に花口なし		魚尾なし		「郎」の字体異なる		割れなし		界線なし		界線なし		魚尾に花口なし							
【立正】A12/156	寛文11年	1671	山田屋善兵衛	京	四周双边(上のみ单边あり)左右双边	有界	8行	17字(小字注文双行)	中黒口	双花口魚尾	妙科	27.9×19.9	18.9×16.0	○	○	○		一面少ない		模様あり		黒口と魚尾接する		魚尾と黒口接する		双边の上に線あり		割れなし		割れなし		左に割れ		黒口と魚尾接する							
【立正】A12/157	延寶4年	1676	中村五兵衛	〔京都〕	四周双边(上のみ单边あり)左右双边	有界	8行	17字(小字注文双行)	中黒口	双花口魚尾	妙科	27.7×19.5	19.1×16.0	○	○	○		一面少ない		模様あり		黒口と魚尾接する		魚尾と黒口接する		双边の上に線あり		割れなし		割れなし		左に割れ		黒口と魚尾接する							
【立正】A12/564	貞享3年	1686	河内屋善兵衛	摂陽〔大坂〕	四周单边	有界	8行	17字(小字注文双行)	中黒口	双花口魚尾	妙科	28.0×19.5	18.5×15.8	○	○	○		一面あり		模様あり(上のみ)		黒口と魚尾接しない		魚尾と黒口接する		单边		割れなし		割れなし		左に割れ		黒口と魚尾接しない							
【駒澤】H353/87	元禄4年	1691	中村五兵衛	〔京都〕	四周单边	有界	8行	17字(小字注文双行)	中黒口	双花口魚尾	妙科	28.5×19.5	18.1×15.7	○	○	○		一面あり	巻1下欠			黒口と魚尾接しない		魚尾と黒口接する		单边		割れなし		左に割れ		* 割れなし		黒口と魚尾接しない							
【立正】183.3/Ka12	元禄4年	1691	灰屋三良右衛門	大坂	四周双边(上のみ单边あり)左右双边四周单边	有界	8行	17字(小字注文双行)	中黒口	双花口魚尾	妙科	28.6×19.4	19.1×15.8	○	○	○		一面少ない		模様あり		黒口と魚尾接しない		魚尾と黒口接する		单边		割れなし		左に割れ		左に割れ		黒口と魚尾接する							
																	* 寛文11		* 寛文11		* 貞享3		* 寛文11		* 貞享3																

* 状態の悪い資料に関しては、黒口や魚尾部分の全体を撮影することは避けた。

■『勢多唐巴詩』について

小本一冊、明和八年八月刊、竹苞楼板。全編、明和八年春から流行し始めたお蔭参りに材を取った銅脈の第二狂詩集、銅脈時に二十歳であった。『勢多唐巴詩』という書名は、瀬田（勢田とも書くが、大群衆が参詣する御蔭参りの書名としては、どうしても「勢多」でなくてはなるまい）の唐橋と称された瀬田橋にちなんだものである。瀬田橋は琵琶湖に架かる東海道筋の端で、都から参宮の人々はこの橋を渡って街道を行き、関と亀山の途中の追分から参宮道に入り、七日ほどを要して往還した。

出典：斎田作楽編「銅脈先生全集 上巻＜狂詩狂文集＞」太平書屋、2008 年

■作者「胡逸滅方海」「銅脈先生」について

畠中観斎（はたなかかんさい）

狂詩作者 [生没]宝暦二年(1752)生、享和元年(1801)6月2日没。

[名号]号、観斎・寛斎・銅脈先生・片屈道人・扁屈道人・太平館主人・胡逸滅方海

[経歴]聖護院宮近習。那波魯堂に学んで漢文学に通じたが、明和六年（1769）「太平楽府」を刊行、以後は狂詩の銅脈先生として知られ、江戸の大田南畝と並び称された。晩年は、柴野栗山・藤原貞幹らと国書の校訂等を行なった。洒落本も執筆。

[著作]狂詩画譜＜明和八刊＞ 狂詩五七言画譜＜明和八刊＞ 勢多唐巴詩＜明和八＞

太平遺響＜安永七刊＞ 太平遺響二編＜寛政一一＞ 太平楽府＜明和六＞ 等

出典：「国書人名辞典 第四巻」（岩波書店）

■書肆・竹苞楼について

銭屋總四郎

姓氏：佐々木氏 屋号：竹苞楼 所在地：京都寺町通姉小路上ル西側

初代名は春重、享保八年五月十五日生、少時より銭屋儀兵衛に就て業を受け寛延四年五月初めて書林の仲々間に入る、宝暦九年十二月九日通称を惣四郎と改む。爾後代々之を襲用せり、当時の住所は姉小路通り寺町西入北川なり、安永九年十一月二日隠居してさらに通称を勘四郎と改む（中略）

二代名は春行。幼名重五郎・明和元年九月十日生、安永九年十一月父の隠居に際して其の通称を襲う時に年十七。天明八年正月三十日洛中大火の為に類焼を被り損害少なからず。享和元年三月十五日新たに地所屋敷を購入し文化二年十二月十二日其の家に開業す。現在の店即ち是なり。

出典：井上和雄編「慶長以来書賈集覧一書籍商名鑑一」高尾書店、1970 年、44-46 頁

■『勢多唐巴詩』対照リスト(版木の傷など)

和漢古典籍研究分科会会員所属館の所蔵する『勢多唐巴詩』の摺り状態などから、校合により印行時期の推定を行った。

チェックポイント		S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8	S9	S10	K1	C1	W1	W2	W3	W4	W5
No. 1	序(義鵬子) 2丁表 匡郭右下割れ	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○
No. 2	本文 4丁表 匡郭上部割れ	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
No. 3	本文 6丁表 「安陀羅校」の<校>はらい	短	短	短	長	短	短	短	短	短	短	短	短	短	短	短	短	短
No. 4	序(義鵬子) 1丁表 匡郭右割れ	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
No. 5	序(梅村和中散人) 尾裏 匡郭左部割れ	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
No. 6	序(義鵬子) 4丁裏 2行目下「補」の送り字<寸>の点	△	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	○	—	×	×	×	×
No. 7	本文 6丁裏 匡郭左側に割れ	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
No. 8	本文 8丁表 3行目「枚」の<ノ>	短	短	短	長	長	長	短	短	短	短	短	長	短	短	短	短	短
No. 9	本文 8丁裏 界割れ	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○

傷ができた順番

◇S:成城大学図書館 K:駒澤大学図書館 C:中央大学図書館 W:早稲田大学図書館

◇○:有/該当 △:やや有 ×:なし/該当せず ◇短:短い 長:長い

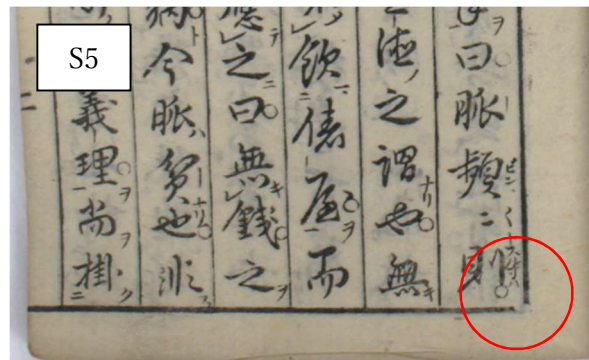
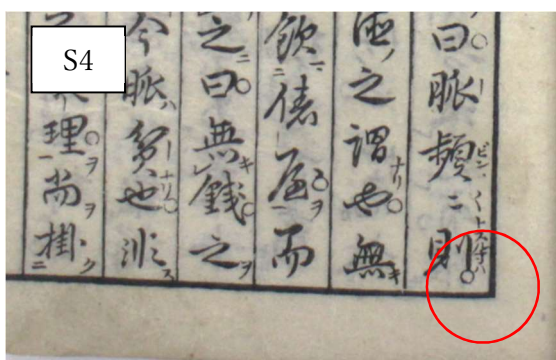
【印行時期の推定】S4→S5→S6・C1→S7・S9・S10・K1・W1・W2→S1・S2・S3・S8・W3・W4・W5

チェックポイント写真

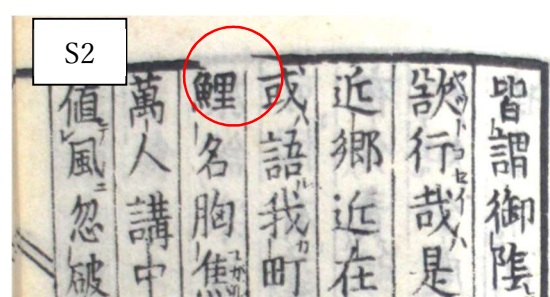
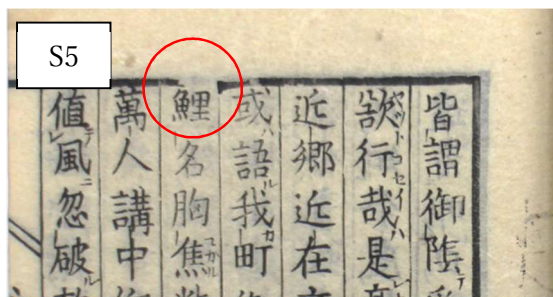
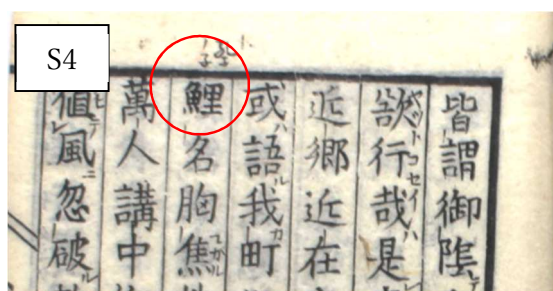
写真は発表資料に用いた下記5冊を掲載する。

- ◇S4：出版者名と広告がある資料。版木の傷も一番少ない。
全チェックポイントの比較元とした。
- ◇S5：出版者名と広告がある資料。広告より天明頃に摺られたと考えられる。
- ◇C1：出版者名と広告がある資料。広告より寛政頃に摺られたと考えられる。
- ◇S9：無刊記だが梅香園主人の書入れがある資料。
- ◇S2：S4と同じ出版者名と広告がある資料。版木の傷等は一番多い。

No.1：序（義鵬子）2丁表 匡郭右下割れ

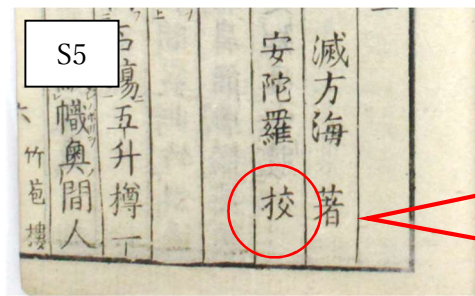
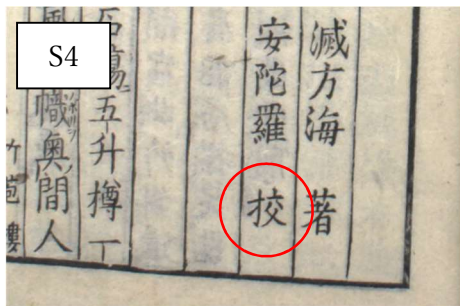


No.2：本文4丁表 匡郭上部割れ

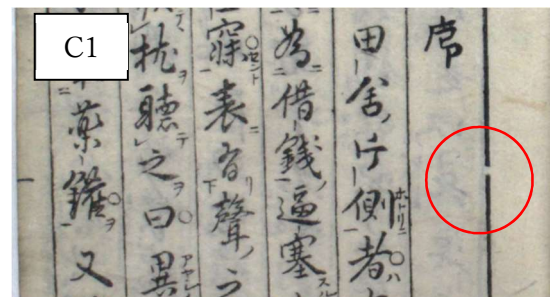
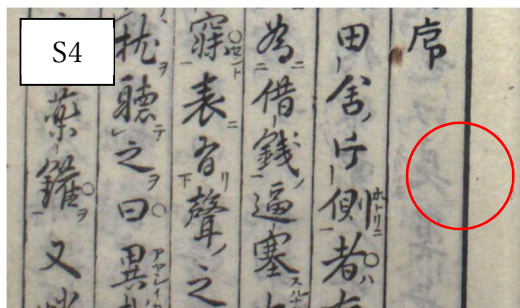


※S2はS5より割れが拡大している

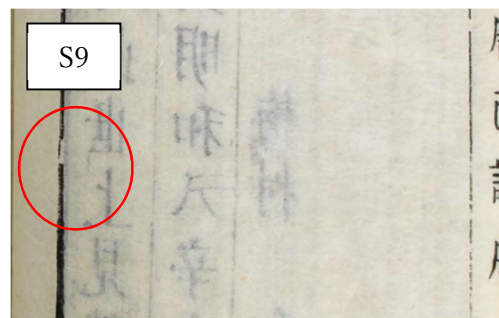
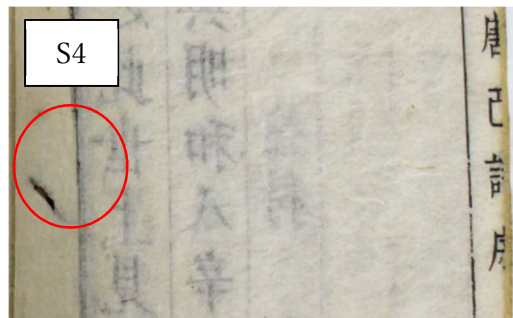
No.3：本文 6 丁表 「安陀羅校」の<校>はらい



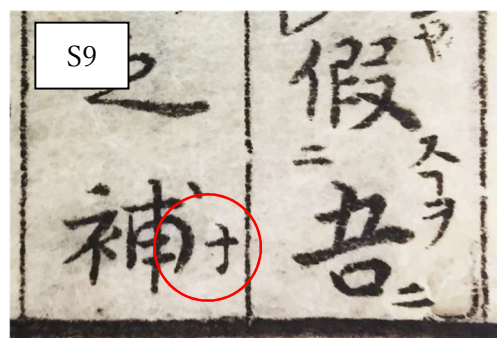
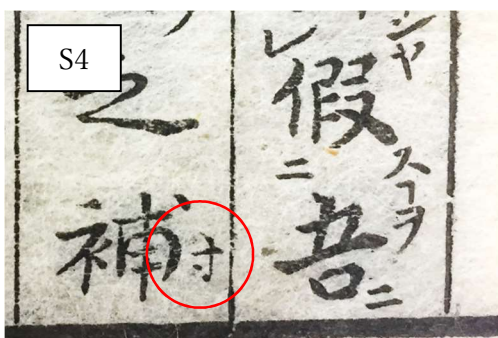
No.4：序（義鵬子）1 丁表 匡郭右割れ



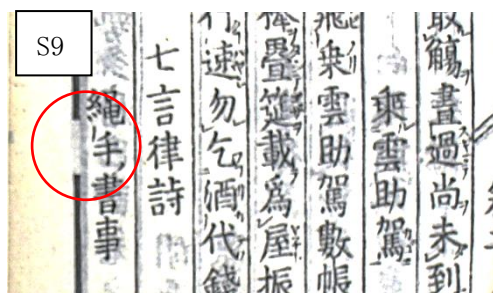
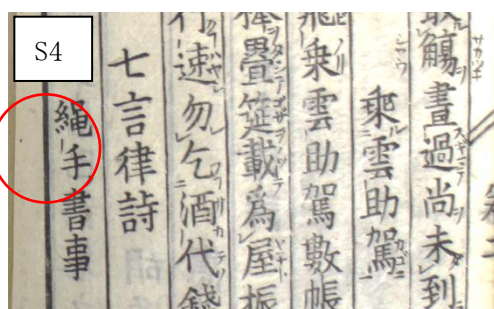
No.5：序（梅村和中散人）尾裏 匡郭左部割れ



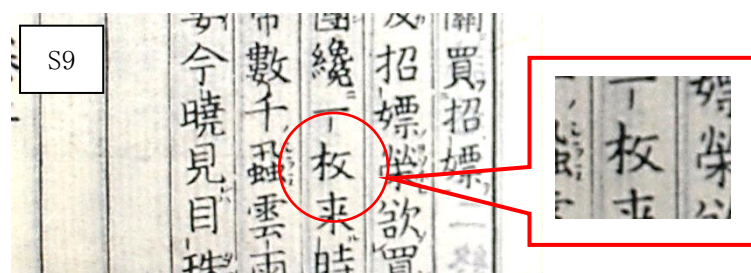
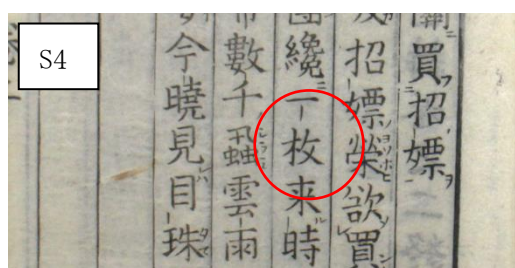
No.6：序（義鵬子）4 丁裏 2 行目下 「補」の送り字<寸>の点



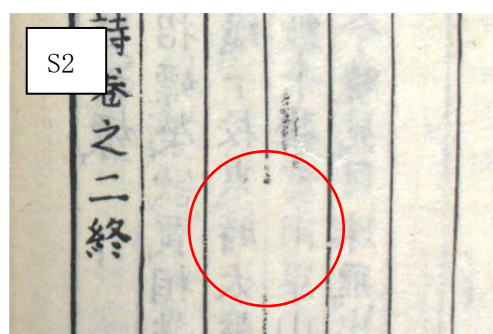
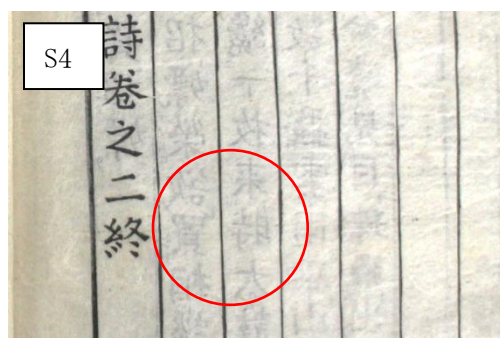
No. 7 : 本文 6 丁裏 匡郭左側に割れ



No. 8 : 本文 8 丁表 3 行目 「枚」の<ノ>



No. 9 : 本文 8 丁裏 界割れ



※画像の転載について

本資料には駒澤大学と立正大学所蔵の『科註妙法蓮華經』、成城大学・中央大学・早稲田大学所蔵の『勢多唐巴詩』の画像を使用しています。資料画像転載の可否につきましては、各大学へお問い合わせください。